The University of Texas, MD Anderson Cancer Center, Department of Genomic Medicine, Houston, TX, USA

消化器外科　竹田 充伸（平成 22 年卒）

私は米国テキサス州ヒューストン市にある MD Anderson Cancer Center で、2019 年 5 月より Postdoctoral Fellow として働かせていただいています。米国南部に位置するテキサス州は、メキシコとの国境に面しており、テクス・メクス料理が有名でメキシコの文化が数多く入ってきています。職場のあるヒューストンは、全米 4 番目の都市であり、テキサス医療センターと呼ばれる世界最大級の医療研究施設の集積地と知られています。気候は温暖で冬でも半袖で過ごせるくらい暖かい日があり、休日は友達家族らとバーベキューを楽しめます。

私は MD Anderson Cancer Center の Genomic Medicine という部門で Giulio Draetta 教授・直接指導医である Wantong Yao 助教授のもと、膵癌の研究を行っています。教室では、薬剤（ドキシサイクリン）の投与により膵臓特異的に KRAS 遺伝子発現を誘導する iKras 遺伝子導入マウスを用い、KRAS 遺伝子のオン・オフ時の表面マーカーを解析することで SDC1（シンデカン 1）が KRAS の発現に深くかかわっていることを解明し、2019 年 Nature 誌に報告されました。私自身は、この研究に基づいて、膵癌における KRAS 阻害や MAPK 経路阻害時に SDC1 が KRAS の働きを代替えしているかを検証すること、また代替えメカニズム自身の解明や SDC1 に対する ADCC（Antibody dependent cellular cytotoxicity; 抗体依存性細胞傷害）活性を利用した治療法の開発を行っています。

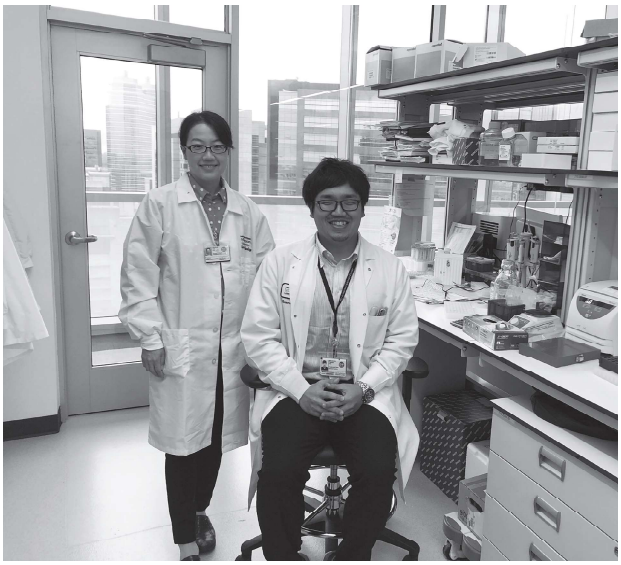
ラボでは、いつでも指導医の Yao 博士とミーティングできる環境にあり、ラボのメンバーに支えられながら、毎日研究に専念する日々を過ごしています。またエジプト人や中国人の大学院生のメンターとして働くことが出来る機会を与えて頂き、英語で指導することの難しさや一緒に研究計画を考える楽しさを学ぶことができております。

研究所外観

海外留学を考えている若い先生へのメッセージとしては、実際に海外留学をしてみないと得ることができない貴重な経験や、異文化の人々と仕事することで、多様な考え方や価値観に触れることができ、自分自身がとても狭い視野や世界で生きてきていたのだなと実感できました。また 1 年間留学してみて何を目的に留学したのかを考えながら過ごすことが大切なのではないかと感じました。英語を勉強したい、海外生活を満喫したい、研究を頑張って論文を書きたいなど、皆さまそれぞれだと思います。慣れない環境で挫けそうになる時もあると思いますが、とにかく海外生活を楽しみながら過してください。

この 2 年間の留学生活が有意義で充実したものになるように精一杯努めたいと思います。末筆ですが、このような貴重な留学の機会を与えていただいた江口英利

教授、土岐祐一郎教授、九州大学大学院　消化器・総合外科　森正樹教授、ご指導いただいた全ての先生方に心から感謝申し上げます。



指導医の Wantong Yao 博士と